

岐阜経済大学インターンシップ推進協議会 概要

■ 設立趣意書

■ 協議会構成員

■ インターンシップの体系（4つのプログラム）

1. ジョブシャドウイング

2. 短期インターンシップ

3. ビジネス研修型海外インターンシップ

4. 中・長期インターンシップ

■ 事業スキーム

■ プロジェクト目標と評価基準の作成に関して

■ 事業フロー

■設立趣意書

岐阜経済大学インターンシップ推進協議会 設立趣意書

岐阜経済大学は、地元政財界の支援のもとに設立され、「地域に有為な人材を養成する」を教育目的に50年歩んできました。この50年で、25,000人余りの卒業生を社会に送り出し、卒業生は社会の様々な場所で活躍しています。

また、岐阜経済大学は、「キャリア形成教育（キャリアを拓く）」を教育理念の一つに定め、専門教育に加え、豊かな人間性を涵養する教養教育と学生自身のキャリアを拓くための就職支援教育を有機的に総合させた教育を展開しています。

一方、我が国の高等教育政策に目を向けると、平成23年1月の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」において、大学の教育課程におけるキャリア教育の展開が求められています。

以上の状況を踏まえつつ、本学のキャリア形成教育の一翼を担うインターンシップを、大学における学修と社会での経験を結びつけることで、学生の大学における学修の深化や、新たな学習意欲の喚起につながるとともに、学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成が図られる有益な取組とするプログラムとして推進したいと考えます。

プログラム実施にあたっては、経済産業省が推奨する、学生と企業が共にメリットを感じ、成長することができる「共育型インターンシップ・プログラム」の構築を目標としていきたいと思えます。

今後、産官学の連携のもとに学生の体系的なキャリア教育推進の更なる充実を図っていくことを目的に、「岐阜経済大学インターンシップ推進協議会」を設立します。

■ 協議会構成員

岐阜経済大学インターンシップ推進協議会 構成員等について

① 協議会構成員

学校法人大垣総合学園の理事・評議員企業の担当者

岐阜県

大垣市

イビデン 株式会社

株式会社 大垣共立銀行

サンメッセ 株式会社

西濃運輸 株式会社

太平洋工業 株式会社

日本耐酸壘工業 株式会社

安田電機暖房 株式会社

岐阜経済大学学長が指名する副学長

岐阜経済大学経済学部長

岐阜経済大学経営学部長

岐阜経済大学教務部長

岐阜経済大学学生部長

岐阜経済大学キャリア支援部長

② 陪席

学校法人大垣総合学園の設置校である大垣女子短期大学の職員

岐阜経済大学の職員

■ インターンシップの体系（4つのプログラム）

岐阜経済大学推進協議会におけるインターンシップの体系について

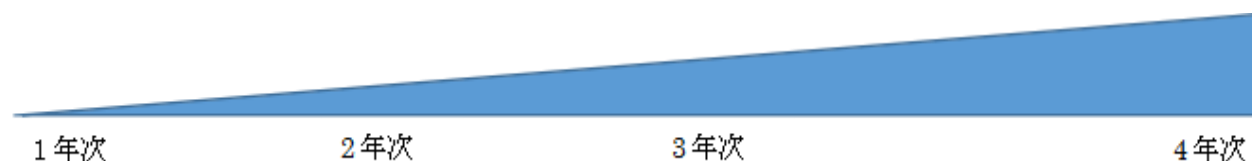
インターンシップ・プログラムにおける「岐阜経済大学モデル」は、画一的な少数のプログラムではなく、学生と大学を取り巻くステークホルダー（主に企業や団体）のニーズに合わせて、様々なタイプをもつプログラム構築が望ましいと考えます。

インターンシップの類型（出所：経済産業省 成長する企業のためのインターンシップ活用ガイド基本編）

区分		特徴	学生の教育効果	企業のメリット	社会的意義
体験中心 数日～数週間	仕事理解型	職場・業務体験が中心。最後にレポートやプレゼンによる報告を実施することが多い。	自己の適性・志向の理解 働くこと・業界の理解	企業・業界広報 ↓ 採用マッチング	学校から職場・社会への円滑な移行
	採用直結型	実際に一緒に働いてみてお互いを見極める採用活動の一環。外資系企業や大手ベンチャー企業などで実施。			
実践中心 数週間～数か月	業務補助型	普通のアルバイトでは経験できないような企業の業務に取り組む。期間は1か月以上が多い。	社会人基礎力	若者を活用した業務の推進	将来の産業界を担う若者の育成
	課題協働型	会社と大学を行ったり来たりして課題発見や企画立案に取り組む。グループワーク形式が多い。	社会人基礎力＋ 学びの実践	若者の発達の活用・社内活性化	
	事業参画型	企業の新規事業や変革プロジェクトの一員として業務に取り組む。期間は1か月から半年間の長期が多い。	社会人基礎力＋ リーダーシップ	若者を活用した新規事業などの推進	

岐阜経済大学モデル インターンシップ・プログラムタイプ

A：ジョブシャドウイング B：短期インターンシップ D：中・長期インターンシップ
C：ビジネス研修型海外インターンシップ



A：ジョブシャドウイング（対象：1年次生） [体験中心 仕事理解型]

概要：

1年生版の1day インターンシップ・プログラム。岐阜経済大学インターンシップ推進協議会がコーディネートした大垣市を中心とする西濃圏域の中小企業を含む事業所で、学生が働く社会人のそばに密着して職場の雰囲気や仕事の様子を第三者的な視点から観察します。

メリット：

- [学生] 初年次に多様な価値観を持った社会人と触れ合うことで、多様な社会の仕組みや人と人との繋がり的重要性を知る。また、学生自身がさらなる成長を目指した学習計画の立案の機会とする。
- [事業所] 学生に観察されることで、特に若手社員にとっては自分の仕事の意味に気づき、仕事の意義を明確にする機会になる。また、学生に向けた事業所の魅力発信の機会になる。
- [大学] キャリア教育の深化。退学者防止。

目標：

- 2018年度 50人、10事業所
- 2019年度 150人、30事業所
- 2020年度 300人、60～100事業所
- ※受け入れの目安は1事業所5人までの少人数制
- ※必ず2人以上のグループを組織すること

B：短期インターンシップ（対象：2～3年次生） [体験中心 仕事理解型]

概要：

- 5日から2週間未満程度の期間のインターンシップ・プログラムであり、現在「インターンシップA」正課授業で実施しています。
- 今後は、大垣市を中心とする西濃圏域の中小企業を含む事業所での大学指定の受け入れ先で行います。

メリット：

- [学生] 学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成が図られる。
- [事業所] 学生に向けた事業所や製品・サービスの魅力発信。採用の機会創出や、新卒採用の準備の一環。
- [大学] キャリア教育の深化。進路選択のミスマッチを緩和。

目標：

- 2018年度 100人（公募制含む）、受け入れ枠 20事業所
- 2019年度 150人（公募制含む）、受け入れ枠 50事業所
- 2020年度 200人（公募制含む）、受け入れ枠 100事業所

C：ビジネス研修型海外インターンシップ（対象：2～3年次生）

概要：

岐阜経済大学インターンシップ推進協議会がコーディネートする、おもに大垣市を中心とする西濃圏の事業所が抱える海外拠点において、1週間程度のビジネス研修を受けることで、学生が国際感覚を養い、自身のキャリアを意識し、大学での学びの重要性や課題を認識することを目標とします。

メリット：

- [学生] 国際感覚を養い、自身のキャリアを意識し、大学での学びの重要性や課題を認識する。卒業後のグローバル人材としての進路選択に役立てる。
- [事業所] 学生に向けた海外事業所や製品・サービスの魅力発信。
グローバル人材の採用の機会創出や、新卒採用の準備の一環。
- [大学] キャリア教育の深化。グローバル人材育成。

目標：

- 2018年度 1～2人、受け入れ枠 1～2事業所
- 2019年度 5人、受け入れ枠 3～5事業所
- 2020年度 10人、受け入れ枠 6～10事業所

D：中・長期インターンシップ（対象：3年次生） [実践中心]

概要：

経済産業省が定めたインターンシップの類型における実践中心のインターンシップ・プログラムです。2週間から1か月程度の中期および、2か月から6か月程度の長期期間の受入れになります。プログラムは「業務補助型」、「課題協働型」、「事業参画型」に分類されます。どのプログラムを実行するかは、岐阜経済大学インターンシップ推進協議会がコーディネートする、おもに大垣市を中心とする西濃圏の事業所が抱える事業所のニーズ、または抱える課題に対して、柔軟にプログラムを構成することが望ましいと考えられます。

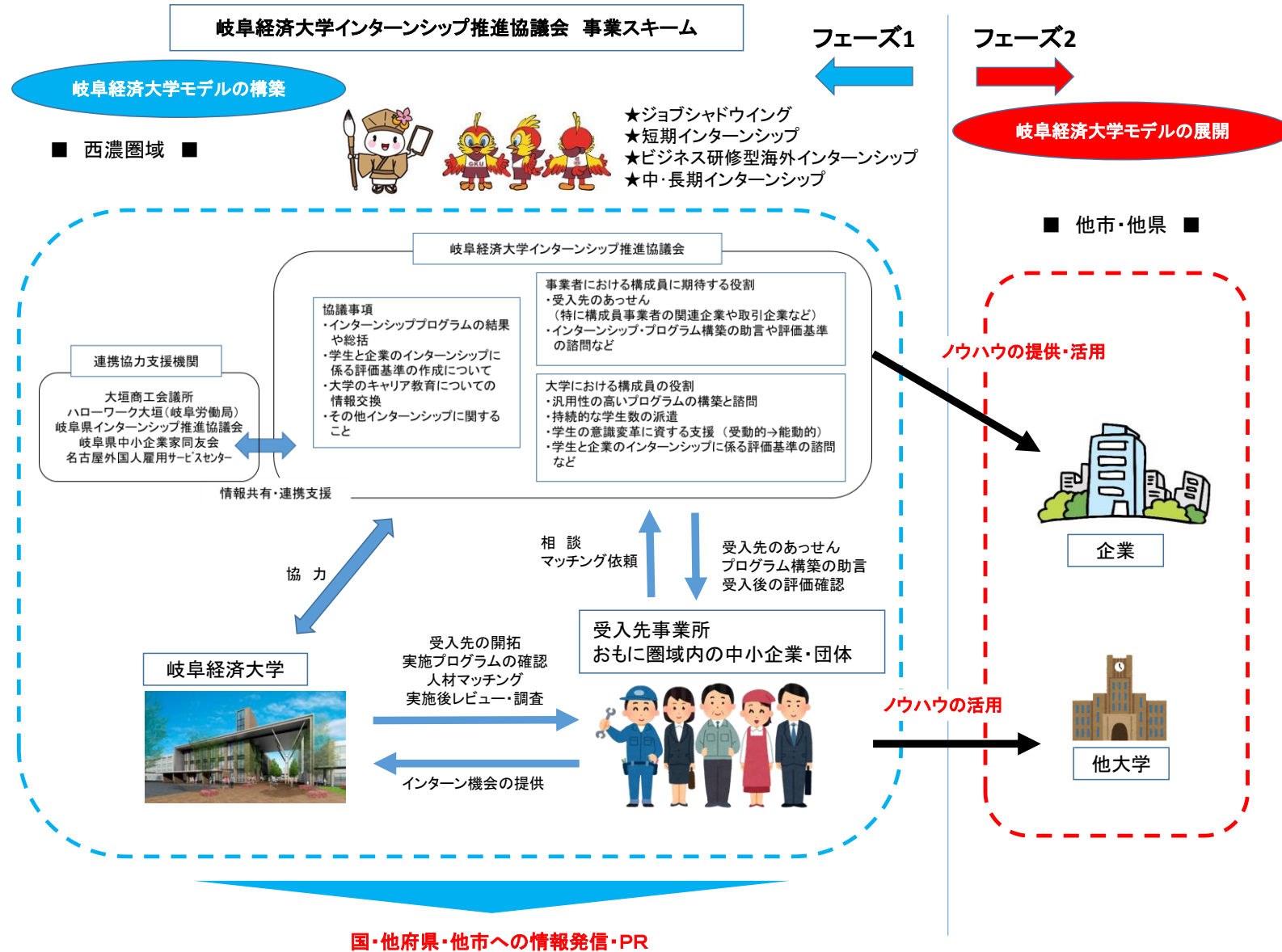
メリット：

- [学生] 社会人基礎力の向上、学びの実践、リーダーシップを身につける。
- [事業所] 若者を活用した業務の推進（業務補助型）、若者の発想の活用・社内活性化（課題協働型）、若者を活用した新規事業などの推進（事業参画型）
- [大学] キャリア教育の深化。将来の産業界を担う若者の育成。

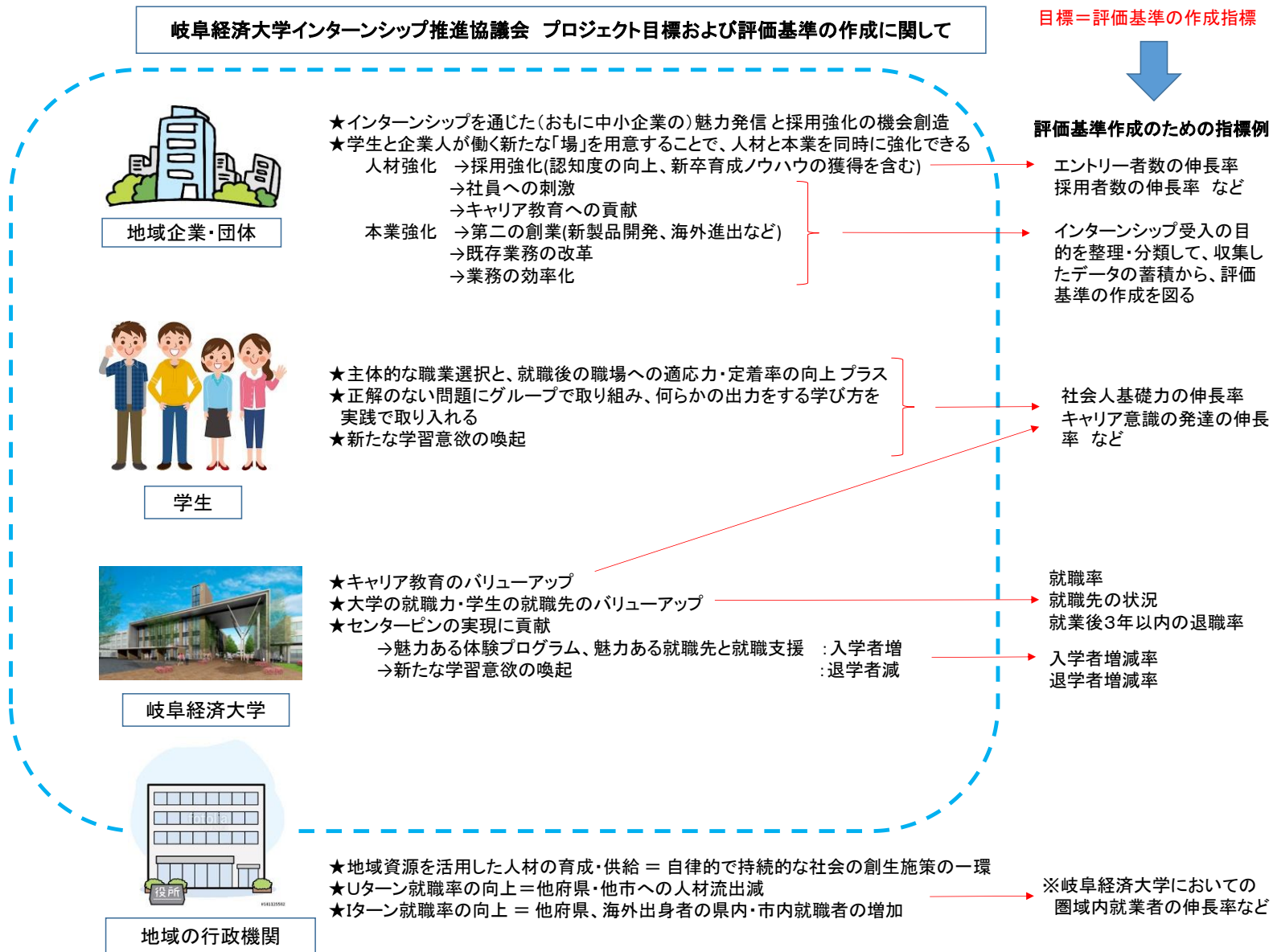
目標：

- 2018年度 1～2人、受け入れ枠 1～2事業所（1か月程度）
- 2019年度 10人、受け入れ枠 3～5事業所（1か月程度）
- 2020年度 30人、受け入れ枠 6～10事業所（1～3か月程度）

■ 事業スキーム



■プロジェクト目標と評価基準の作成に関して



■事業フロー

